

こどもの城 ニュース

KODOMO NO SIRO
NEWS

2005.9.15 No.164 発行/〔こどもの城〕広報部 ☎03-3797-5674
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1



人民元の切り上げなど、急速に発展する光景は、表通りのりっぱなビル群、デパート、商店街などに現れる。一方裏通りでは、伝統的な麻雀に夢中になる大人のそばで、子どもがおにごっこ。街頭では「床屋」も営業中。祖母に見守られて、男の子はしんみょうな顔つき。洗髪はないものの、20分ぐらいいかけてほしいにあってもらう。店主のおばさんは注文があれば、市内のあちこちに出張すること。散髪が終了した男の子は鏡を見て、満足そうな顔を浮かべた。(中国/写真・文=平早勉)



〔こどもの城〕は、「国際児童年」(1979年)を記念して作られ、昭和60年(1985年)11月1日に開館しました。今年の11月1日で開館20周年を迎えます。〈あそび〉をキーワードに子どもたちに健やかに、そして心豊かに育ってもらおうとさまざまな活動をしてきました。これからも、〔こどもの城〕が人と人のふれあい・交流の場であることを大切に、〈あそび〉の

なかで一人ひとりの子どもがしなやかでたくましい「個」として成長し、仲間と輪になったときも集団としての輝きをはなつことができるように支えていきたいと考えています。さらに、子育て支援、次世代の育成を大切にしていきたいと思っています。

〔こどもの城〕開館20周年記念プログラムの主なものは下記のとおりです。

〔こどもの城〕開館20周年記念シンポジウム

11月1日
1時～3時30分
青山円形劇場

子どもはどこで育つ?

子どもが育っていくうえで、家族の力や影響力はたいへん大きなものがあります。社会環境の変化とともに「家族」は変わっています。家族の持つ「子育ての力」はどのように変化してきたのでしょうか。パネリストの皆さんにそれぞれの立場から、現在の日本の家族と「子育ての力」について語っていただきます。

家族にできること・できないこと、家族の外側の社会ができること・できないことを考えてみたいと思います。

■パネリスト(敬称略・順不同)■

菅原ますみ (お茶の水女子大学/発達心理学の立場から子どもの精神発達と家族関係を考えます)

久田邦明 (神奈川大学/子どもたちの居場所作り、地域のこどもを育てる力について考えます)

川原圭敬 (映画監督/老人と少年の心のキャッチボールなどをえがく次回作を準備中)

神崎ゆう子 (歌手/最も記憶に残る『おかあさんといっしょ』の歌のお姉さん)

司会: 好本恵 (フリーアナウンサー)

■「シンポジウム」の参加方法■

定員: 250人(先着順。定員になり次第締め切り)

対象: 子育て中の父母、児童館・保育所など子育て支援の現場で働く人など。

※託児サービス(6か月以上)あり。定員制・保険料の自己負担あり。

入場料金: 無料(シンポジウム終了後、〔こどもの城〕を利用することもできます)

申し込み方法: 氏名、連絡先住所、電話、託児希望の有無(お子さんの名前と年齢)を記入のうえ、下記の方法でお申し込みください。

ファックス (03-3797-5676)
Eメール (sympo@kodomonono-shiro.or.jp)

はがき(〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1)「企画研修部開館20周年記念 シンポジウム係」にて。
※お問い合わせは、企画研修部【03-3797-5675】

一人ひとりを大切に遊びが つくる みんなの WA



「アートであそぼう!」のワークショップ「木をつくろう」

〔こどもの城〕開館20周年記念

ブルーノ・ムナリー展 ~もっと豊かに! もっと自由に!~

11月15日~12月18日(月曜日休館)
ギャラリー・造形スタジオ

アートで遊ぶワークショップ

ブルーノ・ムナリーは、イタリアのアーティスト。デザイン、絵本作り、建築など幅広い分野で活動

した人です。子どものための造形活動にも取り組んでいて、〔こどもの城〕が開館したときには、ムナリーを招待してシンポジウム、ワークショップ、作品の展示で構成した「ムナリー展」を開催。その後、〔こどもの城〕のコレクション「ブルーノ・ムナリー巡回展キット」として〈動くこどもの城〉などで全国をまわっています。20年を経た今、「もっと豊かに! もっと自由に!」アートにふれる意味をもう一度考えてみます。造形スタジオでは、期間中毎日「アートであそぼう!」の8つのワークショップ(木をつくろう/直接の映写/さまざまなかたち/コラージュ/テクスチャー/線で表現する/点でえがく/色彩)のうちのいずれかを実施します。

■講演会「ムナリーが教えてくれたこと~イタリアでの活動」(仮)■

日時: 11月23日

対象: 児童厚生員など、児童の福祉・文化・教育活動にかかわっている人、児童の造形・美術教育に興味のある人など(高校生以上)

講師: ベバ・レステリ

※詳細(料金・申し込み方法など)は、造形事業部【03-3797-5662】へお問い合わせください。

〔こどもの城〕開館20周年記念

ダイアログ・イン・ザ・ダーク 子どものためのワークショップ

11月19・20、26・27日、12月3・4、10・11、17・18日
フリーホール

■「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」の参加方法■

時間: 各日、10時、11時、1時30分、2時30分、3時30分

定員: 各回6人(応募多数の場合は抽選)

対象: 小学1年生~高校3年生

※参加本人の意思を確認してください。耳の不自由な人、車いすの人は安全性確保のためご遠慮ください。

入場料金: 無料(〔こどもの城〕入館券も不要です)

申し込み方法: 氏名、学年、連絡先住所、郵便番号、電話、参加希望日時(第3希望まで)を記入し、下記の方法でお申し込みください。

ファックス (03-3797-5676)

はがき(〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1)

専用申し込みフォーム:

<http://www.kodomonono-shiro.or.jp/event/did/>

「企画研修部開館20周年記念 ダイアログ・イン・ザ・ダーク」係。

※お問い合わせは、企画研修部【03-3797-5675】

“感覚”の豊かさを感じる

自分の手さえ見えない、真っ暗なところで、ものにふれたり、音を聞いたりしながら日常生活のさまざまな場面を体験するワークショップです。目の不自由な人たちの案内で、グループで暗やみを体験します。視覚以外のすべての感覚を使って進みます。暗やみの中では、一人ではありません。グループで体験するからです。「足もとに何かあるから気をつけて」とほかのメンバーへの気づかいもやさしくなります。暗やみの中で、ふだんのなにげない行為の意味を見直すことになります。

人間が本来もっている“感覚”の豊かさ、人と人のコミュニケーションの基本を、暗やみという特別な環境の中で体験することになります。私たちのもっている“ちから”を改めて見直す機会になるかもしれません。

子どもゆめ基金助成(独立行政法人オリンピック記念青少年センター)の事業。

〔こどもの城〕開館20周年記念

赤ちゃん大集合

11月4日/10時~3時30分
〔こどもの城〕の館内各所

親子(乳幼児)のためのプログラムがいっぱい

乳幼児を持つお母さんたちの輪に医師、臨床心理士、保健師、管理栄養士などの専門スタッフが加わり、自由に交流を楽しむ「赤ちゃんサロン」(毎月1・2回、火曜日)を平成3年から開催。3か月から1歳半までの子どもを持つ親などを対象に、子育て支援に取り組んできました。「赤ちゃん大集合」は、「赤ちゃんサロン」を中心に、体育室、音楽ロビー、プレイホールなど、さまざまなところで、いろいろな種類の「親子(乳幼児)遊び」が楽しめるイベントです。〔こどもの城〕が20年間にわたって作り上げてきた、たくさんの子育て支援・親子プログラムを体験することができます。



■赤ちゃん大集合■

日時: 11月4日

10時~3時30分

対象: 3か月以上2歳未満の乳幼児とその保護者

料金: 無料(〔こどもの城〕の入館券が必要。事前の参加申し込みは必要ありません)

※内容などの詳細は、企画研修部【03-3797-5675】へお問い合わせください。

ドルッチャランド

こどもの城開館20周年記念事業の一つ「めざせ王様!! チキチキドルッチャランド」が、8月26~28日に行われ、たくさんの方が参加し、「遊びショップ」のショッピングを楽しみました。



ドルッチャフェスティバル



ドルッチャランド マジックアワーパーティー



人と地球の、自然なサイクルのために。

人と自然が調和する持続可能な社会の実現をめざして、富士通グループ16万人、ひとりひとりの力をすべて結集します。私たちは、最先端のITと、環境テクノロジーをベースにお客さまにご提供する製品、ソリューション、マネジメントなど事業活動の全領域を通じて、さまざまな環境活動を行いながら、豊かな地球環境の未来を創造していきます。

すべてをグリーンにします

jp.fujitsu.com/about/eco



THE POSSIBILITIES ARE INFINITE

写真で見る「こどもの城」の夏休み



F1シミュレーターカーの運転は、おもったより難しかったようです「F1カー特別展」(写真左上)。海賊たちを水鉄砲でやっつける「ウォーターアドベンチャー2005〜宝さがしの大航海」(下)



フェルトを木の棒に巻き付けて、かわいらしい生き物に。「布と造形〜フェルト棒」(左上)。こんな形になったよ「布と造形〜なにに布広場」(左下)。作ったばかりのジエンベを持って、講師のワゴン・ンジャエロースさんと音楽ロボの「めずらし楽器にチャレンジ」のコーナーで初演奏。「親子で作ろう手作り楽器のワークショップ」(上)。



「トランポリン」のデモンストレーション(左)。「わあ〜高い」

国際子ども映画祭 キンダー・フィルム・フェスティバル終わる

13回目を迎えた「国際子ども映画祭 キンダー・フィルム・フェスティバル」が、8月4〜14日に[こどもの城]のBスタジオ(4〜7日)と青山山形劇場(9〜14日)で開かれました。審査の対象となるコンペティション参加作品(ドラマ部門=5作品、アニメ部門=6作品)のほか、ドイツのアニメ監督・製作者のアレキサンドラ・シャッツの特集上映、「ファインディング・ニモ」「Mr. インクレディブル」などのCGアニメで知られているピクサー社のアーティストによるアニメ制作ワークショップ、声優体験ワークショップなど、もりだくさんのプログラムが行われました。

『イン オレンジ』(ドラマ部門) 『飛んだ子ブタ』(アニメ部門)がグランプリに

キンダー・スタッフ審査員(小3〜中3、10人)が選んだグランプリ作品は、ドラマ部門『イン オレンジ』(ヨラン・レルセン監督/オランダ/2004年/90分)、アニメ部門『飛んだ子ブタ』(アリア・ジャボルス監督/スウェーデン/2004年/10分)の2作品。

『イン オレンジ』の主人公レムコは、コーチである父の死を受け入れずに、まぼろしの父とサッカーのオランダ代表をめざします。足が悪いことを気にせずに練習を続けるところが印象に残りました。また、父と子の愛を感じることができて素晴らしい作品だと思いました。

空を飛びたいと夢見る子ブタが主人公の『飛んだ子ブタ』は、自分が本来求めていなかったことも、覚えると後できっと役に立つということ、あきらめなければ絶対に夢はかなうことを教えてくれた作品だから

—というのがそれぞれの選考理由です。

「グランプリに選ばれたのは、たった2作品ですが、この映画祭でたくさんの人に見ていただき、感動を与えたということでは、上映されたすべての作品が賞を獲得したものと同じことだと思います。見に来てくれた人もふくめ、映画祭を支えてくれた人たちのエネルギーを映画を作



レルセン監督に代わって賞状を受け取るレナーテさん

ってくれた監督たちにも伝えるつもりです。きつとすばらしい映画作りの後押しになってくれると思います」と、キンダー・フィルム・フェスティバルのディレクター、レナーテ・ツイラさんは閉会式であいさつしました。

CGアニメのピクサー社のジニ・サントスさんの指導でアニメ制作を体験

ピクサーアーティストによるアニメ制作体験ワークショップは『ファインディング・ニモ』の「ドリー」などを担当したジニ・サントスさんが指導。12・13日の2日間で計4回行われました。ニモの友だちのパー



ジニ・サントスさんの指導でアニメ制作体験ワークショップ

が泳いでいるようすをアニメにしてみました。ジニさんの指導に合わせて、泳いでいるときのドリーの体の形はどのように変化しているかを考えながら、1枚1枚絵を描きます。描いた絵は、その場で撮影してスクリーンに映し出しました。個性あふれる、たくさんドリーが吹々とスクリーンに現れては、かわいらしく泳ぎ回りました。

おりがみにつよくなる講習会(10月16日、30日)の参加者募集

「おりがみにつよくなる講習会」が、10月16日と30日(いずれも1〜4時)に開かれます。講習会のテーマは「折って遊べるおりがみ〜おりがみで子どもたちと遊ぶ〜」。16日と30日は異なる内容を予定(折り図の見方の指導は共通)。対象は、児童館、保育所、幼稚園などで保育や遊びの指導にあっている人、保育者をめざして勉強している学生、折り紙が好きの人。講師は、日本折紙協会講師の榎本京子さん。受講料は3,500円(1日)、9月16日正午から電話で先着順に受け付けします。定員は、各日50人。お問い合わせ・お申し込みは、企画研修部【03-3797-5675】まで。

10月8〜10日 体育室で「サッカーフェスティバル2005」

FC東京のサッカークリニック、ウォールサッカー大会など

「サッカーフェスティバル2005」が、10月8〜10日に体育室で開かれます。JリーグのFC東京のコーチが来館して「サッカークリニック」を行うほか、PK大会やウォールサッカー大会が開かれます。

サッカーは、ボールさえあればどこでも楽しめます。体育室のようなところでも、ルールを工夫して「室内サッカー」を楽しむ人がいっぱいいます。[こどもの城]でも、オリジナルルールのウォールサッカーを楽しんでいます。

8・9日は、10時30分からPK大会。午後はFC東京のみさんによる「サッカークリニック」。1〜2時が親子(幼児)対象、2時〜3時20分が小学1・2年生対象、3時30分〜5時が小学3年生〜中学3年生が対象になります。



FC東京の「サッカークリニック」(昨年)

平成18年度「幼児グループ」会員募集中

保育研究開発部では、平成18年度の「幼児グループ」のメンバーを募集します。【募集対象・人数】4歳児(平成13年4月2日〜14年4月1日生まれ)11人、5歳児(平成12年4月2日〜13年4月1日生まれ)若干名【募集要項】申し込み希望の方は、必ず見学会(10月4、7、12、20日。いずれも10時30分〜11時30分。電話予約が必要)にご参加のうえで、ご応募ください。応募用紙は、見学会終了後に配付します。詳細は、お問い合わせください。【お問い合わせ】保育研究開発部「幼児グループ」係(☎03-3797-5669)へ。

70人が参加して「保育セミナー」開く “家族援助”を参加者とともに考えました

子どもの育ち・社会の育ち—をテーマに、第19回こどもの城保育セミナーが8月6・7日に全国各地の保育関係者70人を集めて、研修室で開かれました。

6日は全体会で、上別府圭子(東京大学大学院)の基調講演「考えてみよう家族援助」と演習・グループディスカッション「保護者とのコミュニケーション」。7日は「コミュニティの中の児童福祉施設〜地域の力を活かすには」(助言者=山崎美貴子:神奈川県立保健福祉大学)、「今、求められている園の運営管理〜リーダー職員の意識改革と職員集団の成長」(助言者=杉山浩子:社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園)、「ワークショップ・明日から活かせる保育実技」(菊池政隆:船橋中央保育園・江東区白川かもめ保育園)の3会場に分かれて分科会が行われました。基調講演では、心理の立場から「家



ロールプレイを見てから、グループごとにディスカッション

族”をどのようにとらえてきたか、その歴史的な変遷を分かりやすく紹介しながら、援助の考え方の流れを説明しました。個人の心のゆがみを直すという考えから、家族を指導して何かをしてもらうことで解決をはかる、さらにシステムとしての家族を丸ごと援助するというように、相互連関のなかに個々のできごとをとらえていくシステム論へと変化。この流れをふまえて、一人ひとりと共感しながら家族全体を援助していければいいと思う—と家族援助の基本的な考え方を分かりやすく解説しました。

午後は、スタッフが親と保育者の会話をロールプレイで演じてみせ、その会話についてグループごとにディスカッション。親と保育者のそれぞれの立場や両者の関係を客観的に見ることによって、今まで気がつかなかったことが浮かび上がってきます。グループごとにディスカッションしたのち、それぞれに発表して全体で考えました。(敬称略)

Bスタジオの催し

9月18・19日、10月2日 手作り楽器のワークショップ「フィルムケースの笛」 1時30分、3時30分 フィルムケースを使って「鳥笛」作り。18日と2日は、1時30分の回が「かも笛」、3時30分の回が「まわす鳥笛」。19日は「かっこう笛」を作ります。小学生以上、定員は各回30人。15分前から会場で受け付けします。 9月23・25日、10月26日 不思議な映像実験室「絵が動いて見えるおもちゃの展示とワークショップ」 11時〜5時 映画やビデオのルーツ「動いて見えるおもちゃ(視覚が道具)」の、さわって、見る展示と、3種類のワークショップ。 ソートロープを作ろう(11時30分〜12時30分) ビンホールカメラを作ろう(1時30分〜2時30分) フィルムに絵を描こう(3時30分〜4時30分) 10月9・10日 こどもの城映画劇場「カナダのアニメー

ション」 11時35分、1時35分、2時35分、3時35分 世界的に高い評価を得ているカナダのアニメーションを上映。 【コスミック・ズーム】(6分/Eva Szasz監督)、「みどりの家」(13分/Thomas Varnos, Joyce Borenstein監督) おもしろビデオ館 金曜日 3時30分〜4時 Bスタジオ 親子で楽しむ「ミニビデオスター」。2〜4歳向けの幼児向け作品を選んで上映。 (なぞめいたおはなし) 9月16日: ベッドのまわりはおばけがいっぱい 30日: パベルの本 ぼうし スイマー (日本の昔話と童謡) 10月7日: ほらほらあおやまのおむすびころりん 14日: こまてしようま さるかに合戦 21日: ひいらいたひいらいた 籠栗さぼてん 28日: こゆび 八化け頭巾



NYMTミュージカル・ワークショップ

APAS ミュージカル、パントマイム、バレエ さまざまなワークショップを開く

自分の体で表現する楽しさを体験

[こどもの城]の青山劇場では、ダンス、ミュージカル、演劇、舞台技術など、それぞれの分野の第一線で活躍している人を講師に招き、身近にパフォーマンスアーツ(舞台芸術)を体験してもらおうと、青山劇場ワークショップ&フォーラムプログラム(Aoyama Performing Art Seminar=APAS:エイパス)を行っています。夏休み特別期間には、昨年も実施して好評だった、12〜22歳の青少年を対象とした「NYMTミュージカル・ワークショップ」(講師=アンソニー・パテンドン:演出家、マクニー・カストロ:音楽家)のほかに、親子ペア(4



パントマイム・ワークショップ(上の空はなび)



パントマイム・ワークショップ(猪俣哲史)



リン・リチャーズのダンス・ワークショップ

〜12歳)や中・高校生、大学生以上を対象にした「パントマイム・ワークショップ」(講師=上の空はなび、猪俣哲史、上海太郎)、4〜16歳を対象とした「リン・リチャーズのダンス・ワークショップ」が行われました。「肉体」という、だれもが持っているものを使って表現する—なにかを伝える—

ことの大切さ、おもしろさなどを学びました。(敬称略)

■青山劇場 ☎03-3797-5678 http://www.aoyama.org

青山劇場

- SHINKANSEN☆PRODUCE INOUE-KABUKI「吉原御免状」 9月8日〜10月5日 10,500円、A席=8,400円、Z席=5,500円 (問) 0570-00-3337 ●クラシカル・ミュージカル「眠らない音」 10月9日〜16日 10,000円、A席=7,500円 (問) 03-3213-7221 ●島田歌徳コンサート 10月22・23日 8,000円 (問) 03-3498-9999 ●「青山太鼓見聞録 vol.1. 2」 10月26日 10,000円、A席=3,500円 (問) 03-3797-5678

青山山形劇場

- アキコ・カンダ モダンダンス公演「彼方へ〜めぐりあう七つの風景〜」 9月16〜18日 4,600円 (問) 048-645-6551 ●松本淳一「オトノキモチ ヒト ツナグ」 9月20日 2,500円(当日=3,000円) (問) 03-3462-6210 ●オペラクリエーション・イン・青山 結成

- 20周年記念 ファミリーオペレッタ まんぷく村のハムスター キック 「ワニのジャックがやってきました!」 9月23〜25日 2,800円 (問) 042-572-9029 ●「日韓友情年2005」記念 K-ダンスフェスティバル ◆日韓ダンスコンタクト ◆コリア ダンス ミュージアム 9月27日〜10月3日 3,500円 (問) 03-3797-5678 ●DEBUT 15TH ANNIVERSARY YEAR VOL.2 (秋・冬編)「ROLLY Glory Rolly」 10月10〜13日 7,000円 (問) 03-3797-5678



- 上田浩三朗サイタル9 ダンス狂言「ハムレット」 10月15・16日 6,000円 (問) 03-3201-8116 ●青山山形劇場+コーチ プラザーズ 共同プロデュース公演「胎内」 10月20〜30日 5,500円(当日=5,800円) (問) 03-3797-5678